

# 関西いのちの電話

ふれあうところ…06-6309-1121

2006.3  
Vol.126



大坂城公園 梅林 『寒紅梅』

- 「風」 …………… P2
- 「相談員ノート」 …… P2
- 「第 42 期 電話相談ボランティア養成講座募集要項」  
…………… P3
- 「第 24 回公開講座」 … P3
- 「関西いのちの電話講演会」  
…………… P4
- 「共感ってなに？」 … P5
- 「私の本棚」 …………… P6

# K風E

## 「狐にだまされなくなった日本人」

関西いのちの電話 理事長 今村 一之

昨年、日本は戦後 60 年となり還暦を迎えたことになりました。2006 年は、新たな 60 年の初めの年で戌年に当たります。この間の戌年にあった興味ある事柄は、・1946 年（昭和 21 年）日本国憲法公布。・1958 年（昭和 33 年）新特急こだま運転開始。・1970 年（昭和 45 年）日本万国博覧会開催（大阪）。・1982 年（昭和 57 年）500 円硬貨発行。・1994 年（平成 6 年）関西空港開港。などであります。

これらの事実は、私にとっては、その時その時の生々しい思い出として蘇ってきます。世界に類のない秀れた憲法と信じ、新幹線の開通を喜び、万博で行列してやっと見た月の石の驚き。ひとこま、ひとこまが活字に固定され、歴史となりました。歴史は、目に見える変化、又ははっきり見えない変化と二つの相で変わっていくように思います。

或る哲学者が 1965 年頃から日本の村で、人間が狐にだまされなくなったと書いています。自分がだまされたのではなくて、噂話として語られるようになったとあります。

これは、日本人の精神や精神文化に大きな変化が起きたのではないかと提示され、自然と人間、人間と人間の結びつきを中心に据えた生活から、他を客観化する時代に移っていったことの現れであろうとされています。

今、世界はグローバリズムが大切と声を大にして叫ばれ、グローバリズムに上手に乗ることが勝ち組を生み出しているように見えます。グローバリズムが本当に私たちを幸せにするものでしょうか。人々は、もっとローカルなものを大切にすべきではないのでしょうか。最近、環境問題が人々の関心を引き、里山とか、里が話題にのぼり、そこでの共同社会への関心が高まっているようにも感じます。いのちの電話の活動をどのようにするか、大きな課題でありましょう。

### 相談員ノート

## — カイロス —

39 期 K, H

受話器を置き、ブースを出たとたんに、「えー、今まで！ちょっとあなた、長すぎるんじゃない…」「！？、ちょうど 150 分、2 時間半か、確かに長かったかな…でもねえー…」

電話の向こうで掛け手は、うつ症状による「生活のしづらさ」をあれこれ、思うまま、ありのままを言葉にされる。

時に早口で、また涙声で…。社会人生活での人間関係の煩わしさ、結婚、出産、育児という人生の流れのなかでの夫や姑との確執、長い闘病生活での疲れと辛さ、不安感など、話の中身にはピークが 2 つも 3 つも…。

すべてをすっかり話し終えた後、明らかに声のトーンが変わっていた。ひとりぼっちと感じている気持ちを受け取れた、掛け手の気持ちに寄り添えた…ということか。

匿名性に守られた電話では、問いかけに対して特に答えを求められているわけでもなく、問題解決を図らなければならない義務も責任も負わなくてもよい…福祉的な課題を抱えた人々への個別的な援助との根本的なちがいがまさにここにある…といえる。

聞くとところによるとギリシャ語で「時間」という言葉には「クロノス」と「カイロス」という二つの意味表現があるそうだ。

前者は、年、月、日、時、分、秒で計れる物理的な時間の流れ、量的な時間を意味し、後者には二度と戻らない、戻せないかけがえのないそれぞれに固有の、今この一瞬という質的な時間という意味があるらしい。

私たちは、人の悩みや問題を直接解決するものではないし、ましてや治療的な関わりも役割も求められてはいないけれど、不安や嘆き、怒りといった感情・気持ちの吐露には、共感的に受容・傾聴し、それなりの「懐の深さ、ひろさ」でしっかりと受け止めたい。

30 分、50 分という時間の長さもさることながら、その中身、質的な意味に目を向けつつ着信から終了までのその時間、まさにその瞬間を「カイロス」としたい…。



## 第42期電話相談ボランティア 養成講座募集要項

募集期間：2006年2月1日（水）～3月25日（土）

養成期間：1年目 2006年4月～2007年3月

2年目 2007年4月～2008年3月

内 容：1年目は、1泊研修ならびに1日研修、週1回の講義またはケース研究、および実習があります。  
2年目は、インターンとしての実習および各種研修があります。

◎ 「いのちの電話」の活動は、一人ひとりの「いのち」を大切にす市民活動として、1953年にロンドンで始まりました。日本では1971年東京に「いのちの電話」、1973年に「関西いのちの電話」が開局し、現在「日本いのちの電話連盟」につながる50センターが全国で活動しています。

◎ 活動の中心は相談です。研修を受けたボランティアが相談員として、人生のさまざまな場面で助けを必要としている人のよき聴き手になろうと受話器に耳を傾けています。

◎ 関西いのちの電話の活動は昨年9月に32周年を迎えました。現在、約400人のボランティアが交代で365日・24時間、さまざまなこころの悩みや訴えを聴いています。年間の受信件数は約2万件を数え、その内容は自殺の訴えをはじめとして現代社会の縮図ともいえるほどの広がりを持っています。

◎ 全国では9000人におよぶボランティアが活動しています。相談ボランティアはいわゆるカウンセリングの専門家ではなく、主婦・会社員・公務員・自営業・教師など、さまざまな背景を持っています。いのちの電話の養成講座を受講し、相談員として認定された後、相談活動と継続研修に励んでいます。

### 関西いのちの電話 第24回公開講座

主 題：『歩かれへんけど歩いてる』～いのちを活かす道～

講 師：牧口 一二 氏（大阪市立大学教養部 非常勤講師）

日 時：2006年3月25日（土） 18：30～（18：00 開場）

場 所：クレオ大阪西

参加協力費：800円（当日1,000円）

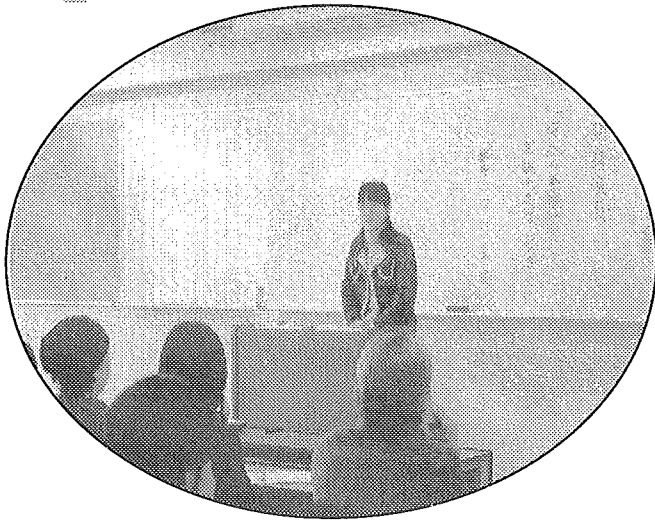
\*この講座は、NHK 歳末募金義援金により実施されます。

◆◆ お申込み・お問合せは、事務局へ ◆◆

Tel 06-6308-6868

# 関西いのちの電話講演会

## 「突然の事故で大切な家族を失ったとき…」



関西いのちの電話は、昨年11月26日、関西大学天六キャンパスで講演会を開催した。臨床心理士 石野泉氏が「突然の事故で大切な家族を失ったとき…」と題し講演した。厚生労働省自殺防止対策補助事業の一つとして行われたもので、以下はその要旨

(文責：広報・編集チーム)

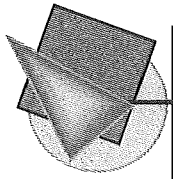
普通、自己の生は長く続くと考えるものです。それと同じく家族の生も長く続くと考えるものでしょう。死は日常ほとんど意識しませんから、ある種のファンタジー（空想）でしか語れない面があります。四才の時の祖父の死は、ある時プツリと突然におとずれたという印象でした。祖父自身にとってはどうだったのでしょうか。自己の死は、そこで意識が閉じられ終わります。この意味で一人称の死は経験出来ない事です。人は死に臨めば、自分の死を思うより、残してゆく周囲の事を考えるようです。そして周囲の気持ちは当然に当事者に向きます。

こうして自己の死より他者の死が、愛憎感情を伴い各人にインパクトを与えるのは、死が二人称としてあるからでしょう。同じ死でもペットの死は掛け値無く純粋な感謝で終わります。

私の場合、結婚生活十年で、夫の或る事件が発覚しての飛行機事故でした。個々の家族の悲しみにはそれぞれの事情があります。ただ悲しいのではなく厄介な気分です。事故を知らされ、何がなんだか分からない半信半疑。

ある種ショック状態に陥り茫然自失。自分自身を後ろから見る様な、離人体験。口走るコトに纏まりがなく身近な者に対する怒り。感情を何処にぶっつけて良いか判らず家族関係がギクシャクし、罪悪感と後悔に陥りました。

突発的な事故による死別は、家族に特有の苦しみをもたらします。山ほどある割り切れない気持ちは簡単にはスッキリしません。問題を抱え込んでいる家族は、そこに引っ掛かり続けます。十分に話をしない限り、前には進めません。被った家族のキズの修復には時間が必要です。



## 共感ってなに？ (26)

### 「感情は誰のものか」

電話相談の中で、ときおりかけ手の激しい感情、特に怒りの感情に出逢うことがあります。聞き手はその感情が自分に向けられているかのように感じ、拒否反応をもったりします。

この激しい感情に応答するには、聞き手自身が覚悟を決めて、怒りの受け手になることです。そのために感情を次のように考えてはいかがでしょうか。

感情は「その人固有の所有物」と考えるのです。

たとえば、同じような出来事があっても、人によって抱く感情は異なります。特定の人から声を掛けられてある人はうれしいと感じ、ある人は悔しいと感じ、またある人は腹立たしいと感じることがあります。その違いを

生み出す原因は、一人ひとりの人生経験の中で培ってきた信条だという考え方があります。信条とは、こうあるべきだ、こうするのが当然だ、こうしなければならない、これが正義だ、というようなその人固有の考え方です。

声をかけた人が、仮に同じような言葉、態度であったとしても、声をかけられた側の受け取り方によって、反応は異なります。この受け取り方に影響を与えるのが信条なのです。

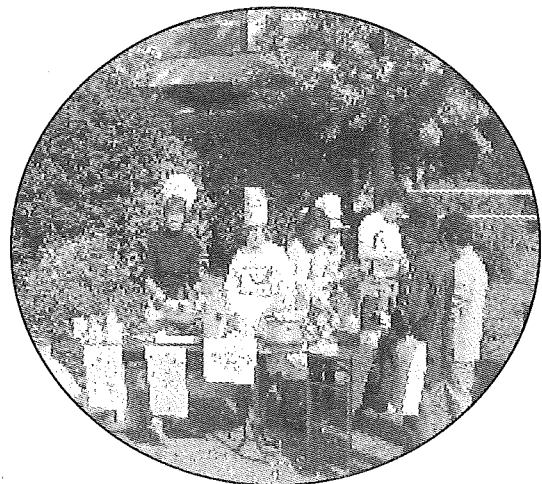
人は出逢ったら声をかけるべきだと思っている人はうれしい気持ちになるでしょう。横柄な態度で声をかけられたと思ったら、悔しい気持ちになるでしょう。人には尊敬の態度で話すべきだと思っている人が、軽薄な挨拶と感じ取ったとすると、嫌な感情を持つこととなります。

激しい怒りの感情をぶつけられた時、かけ手の背後にある出来事と、それに反応しているその人固有の信条に耳を傾けると、その人の怒りに巻き込まれずに受け取ることができるのです。

長尾文雄

2005年11月5日(土)

前日より雨模様だった天気もなんとか持ちこたえ、創立32周年記念バザーが開催されました。



## 創立32周年記念バザー開催される

### ■■ 協賛企業名 ■■

(有) なかの

東リ (株)

江崎グリコ (株)

(株) 中京医薬品

(株) ダイドー繊維

吹田竹見台地区青少年対策委員会

(敬称略・順不同)

事前に行った博愛社カーニバルでのお知らせチラシの配布ポスターの効果もあってか、早くから、開場を待つ列ができていました。また、模擬店からはヤキソバやフランクフルトの美味しそうな匂いが流れ、購入した品物を抱えた、たくさんの人たちで賑わっていました。

バザーの収益は、私たちの電話活動を支える大きな資金源の一つです。そして、バザーの開催にあたっては、模擬店の準備や販売、寄贈品の収集から値付けや販売、ロタリー券など、どれをとっても相談員の協力なしにはできません。しかし、収益は残念ながら、年々、減少傾向を示している厳しい現実があります。とはいえ、一連の共同作業からは、相談員同士の交流も生まれています。関西いのちの電話に関わる人たちが、一丸となって取り組む「バザー」という事業から、得られることは大きいと改めて感じました。

ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。

文責：バザーチーム

# 私の本棚



## 『武士の家計簿』-加賀藩御算用者の幕末維新- 磯田 道史著 新潮新書

この本は、私の故郷、金沢・加賀藩〈御算用者〉猪山家の家計簿（入払帳）から、綴られた歴史エッセーである。執筆者である磯田氏が、古文書「金沢藩猪山家文書」が売りに出ているのを知ったのは、平成13年夏。ポケットに16万円をねじ込んで、神田神保町の古書店に駆けつけた。古い和紙を詰め込んだみかん箱から出てきた古文書は、まさしく「武士の家計簿」だった。しかも、ただの家計簿ではなかった。天保13（1842）年7月から明治12（1879）年5月まで、約37年間にわたって残されていた、幕末武士が明治士族になるまでの完璧な記録であった。「御算用者」とは、今でいう経理・会計処理専門家である。猪山家は代々この「御算用者」という専門職を身につけ、激動の時代を生き抜いてきた。

この古文書を基に、氏はこの家族の日常を生き生きと描いている。それは武士や士族の日常である。武士の俸禄制度はどうか、年収は、小遣いは、借入金は、いくらか。慶弔にはいくらいるか、等など。この古文書の中からのこと細かな記述により、加賀藩の中で生きてきた彼らの人物像が鮮やかにみえてくる。

そして、もっと読み進めていくと、この猪山家は、すでに幕末から明治の時点で、金融破綻・地価下落・リストラ・教育問題・利権と収賄・報道被害など、現代の我々が直面しているような問題をすべて経験していることが、明らかになる。

最後に氏は述べている。「死者は雄弁である。問いかければ死せる者は語ってくれる。猪山家の人々から大切なことを教えてもらった。大きな社会変動のある時代には、今いる組織の外に出ても、必要とされる技術や能力を持っているか、が人の死活をわける。自分の現状を嘆くより、自分の現行を嘆き、社会に役立つ技術を身につけようとした士族には未来がきた。この本を書き終えてこれだけは言える。恐れず、まっとうなことをすれば、よいのである。」

29期 N. K

### <ありがとうございました>

淀川社会福祉協議会 様 3.3万円  
NHK 歳末募金 様 18万円  
大阪共同募金会 様 153万円

### 相談電話受信件数

受信月	10月	11月	12月	1月
受信件数	1,653件	1,548件	1,881件	1,583件
相談員数(延)	445人	420人	502人	425人

注) ※12月は、フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」を含む。

### —— 編集後記 ——

今年の第一号は、風まだ寒い早春号です。今、関西いのちの電話では、価値観が多様化する中で、係わる一人ひとりが、元気でその役割を果たすことができるようにと、組織再編成に取り組んでいる。

皆同じような思いでふみだしたであろう第一歩。変わる事情にも対応することが出来、この働きを元気で続けてゆけるために、知恵と心を寄せ合いたい。

S. S

・○ 編集チームより ○・

都合により、2・4月号を合併し3月号としました。ご了承ください。

#### 社会福祉法人 関西いのちの電話

事務局 〒532-0028 大阪市淀川区十三元今里 3-1-72  
TEL. 06-6308-6868 FAX. 06-6308-6180  
発行人 今村 一之 編集 広報・編集チーム  
ホームページアドレス <http://www.age.ne.jp/x/kaind/>